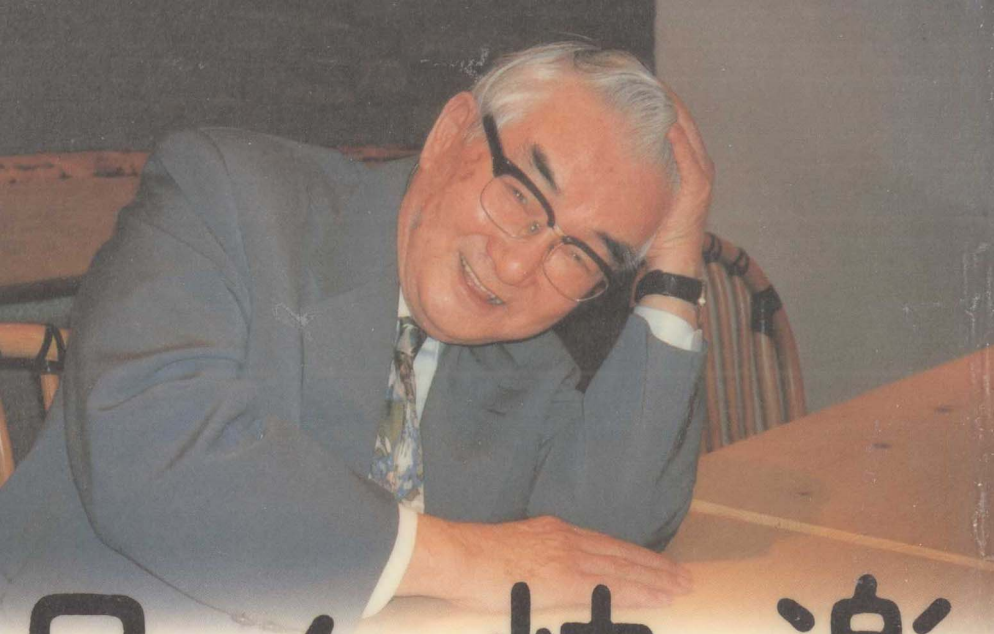




日々快樂

聞き書き 岡田喜一郎

淀川長治

106223



日々快樂

聞き書き 岡田喜一郎

淀川長治

大和書房

日々快樂

一九九四年四月二五日 第一刷発行

著者——淀川長治

発行者——大和謙二

発行所——大和書房

東京都文京区関口一—三三—四 一—二二

電話 (三三〇三) 四五一一

FAX (三三〇七) 八七四〇

振替／〇〇一六〇—九—六四二二七

印刷所——厚德社

製本所——小泉製本

装幀——本山吉晴

©Nagaharu Yodogawa Printed in Japan
乱丁・落丁本はお取替し不可
ISBN4-479-01076-9

日々快樂——目次

プロローグ わたしは今がいちばん楽しい

今ほどおもしろい時代はない

映画だって現代いまがいい

「楽しむこと」の権利を捨てない

12

第1章 感激する快樂

春夏秋冬、感激する楽しみ

20

感激することが生活条件のひとつです

「感激する心の贅沢」を持って下さい

満月を見て吠える楽しみ

27

灯台のてっぺんに泊まってみたい

崖っぷちの家のおかげで助かった

人を喜ばせる楽しみ

34

「一日一善」で楽しく生きる

うれしい気持が元気を呼ぶ

感謝を表わすにはエネルギーが必要

死を考える楽しみ 42

死は人間卒業、自殺は人間廃業です

遺言ビデオのつくり方

わたしは欲が深いから、寿命以上に生きてやる

第2章 ひとり暮らしの快樂

ひとりものの楽しみ 50

独身で生きるには、掟があります

わたしは、映画と結婚したんです

女は賢いし、油断がならないと思った

わたしは『家族の肖像』の老教授です

ホテル暮らしの楽しみ

62

エレベーターに棺桶が入るかチェック

せんべいぶとんからサヨナラ

ホテル暮らしは『グランドホテル』のよう

「おそろようございます」の楽しみ

69

自分なりの生活リズムを大切に

眠れないときは、考える

第3章

動きまわる快樂

おしゃべりに酔っぱらう楽しみ

76

おしゃべりはエネルギー源

「一生懸命」で病も逃げる

いつでもどこでも、書くことの楽しみ

86

書くことは頭のトレーニング

相手の気持になつて考える

几帳面な精神が元気の「素」

旅ゆけば……の楽しみ

96

面倒くさがらずに出かけること

旅は勉強がいっぱいできる

想い出づくりも旅の醍醐味

旅は生きること自信をつける

第4章 食へることの快樂

墓場に立つと食欲が湧く楽しみ

生きていることのありがたさに気づく

好きなものを食へて楽しむ

チャップリンのように楽しんで食べる

酒を飲む楽しみ

122

お酒で上手にストレスを発散する

お酒は企画を生み出す良薬

タバコも意志の力でやめた

第5章 男と女の快楽

蜜の味の楽しみ

132

映画の恋、現実の恋

生きている限り恋をする

ああ！ 不倫の楽しみ

138

不倫は楽しくて怖いもの

苦労や悩みは人間を成長させる

男と女、いじめの楽しみ

146

いじめ、いじめられる関係

『春琴抄』の情欲が楽しい

第6章 合縁奇縁の快樂

友だちとつきあう樂しみ

156

親友を得たのも映画のおかげ

人間はひとりでは生きられない

心をつなぐ友情を大切に

ユーモアを持つ樂しみ

166

笑いを考え出すことが大切

ユーモアは「悲劇」を「喜劇」に変える

若者を叱る樂しみ

175

言葉を儉約しない

叱ることは、相手のことを考えること

叱り方にもコツがある

第7章 映画の快楽

映画を観る楽しさは単純なことから

居ながらにして世界旅行ができる

映画は本物のよさを教えてくれる

セックスシーンの今昔

大人の古い感覚は怖い

映画は個性の大切さを教えてくれる

愛が人を育ててくれる

あとがき

219

188

日々快樂

プロローグ

わたしは今がいちばん楽しい

今ほどおもしろい時代はない

——年をとつてくると、よく「昔はよかったなあ」と言う人がいますが、淀川さんはいかがですか。

「昔はよかった」。それは嘘ですよ。

そういう人は自分の生きてきたい部分だけを探して言っているだけです。懐古趣味だ。古きよき時代を懐かしむのもいいでしょうけれど、そんなセンチメントは嫌いだ。

わたしは五〇年前、六〇年前をふり返つてみて、どう考えてみても今の世の中の方がいいに決まっていると思つています。そのころよりもなにかもが豊かになつてゐるし、贅沢になつてゐますねえ。

たとえば、わたしの子供のころは神戸から東京へ行くのは大旅行だった。一大決心をして出かけたものです。でも、今はひとまたぎですねえ。また食べ物でもご馳走なんか食べられなかった。テレビだつてロスで大地震があれば生中継で映像を送ってくる。そんなも

感情、情緒

活かし

えいどろ

のがなかった時代と比べたらえらい違いだ。

わたしは今年（一九九四年）の四月一〇日で八五歳。

考えたら明治、大正、昭和、平成の四代にわたって生きてこられた。その時代をこの目で見ていろいろ体験させてもらいましたから、それがよくわかるんですね。

映画だって昔はよかったというのは嘘ですよ。

子供のころの活動写真はサイレント。夢中で浴びるほど観ましたけれど音は出ない。画面だってそんなにきれいでなかった。
トリーキーになったとき、字幕スーパーを画面のどこに入れるか問題になったこともあり
ました。

画面の下だと頭が邪魔になってうしろのお客さんにわるい。端に入れると敷にらみになるなんて思ってた。
ラブシーンで見つめ合うふたりの真ん中に、「アイ・ラブ・ユー」「アイ・ラブ・ユー」

そんなバカバカしいこともやっていたのね。

映画だって現代がいい

ところが現代は画面も鮮やかになったし、広くなった。カラーなんか当り前。音響だつ

てすごくよくなっている。

それにストーリーだって昔みたいに単純じゃありませんね。もっと複雑になっています。人間の描写だって深く深く^{深へ深へ}ほり下げてつくっていますね。必要ならば全裸のセックスシーンやヘアも観せてくれる。昔はこんなシーンがあつたら大騒ぎでしょうが、今は平気。それくらい映画も変つてきたんです。

たしか一九七六年にルネ・クレール監督が来日したとき、彼はわたしに、

「いまに映画をポケットの中に入れて、家に持つて帰る時代がくるよ」
と言いました。

（本当かいなあ。この監督、妙なことを言っているなあ）

と思いましたが、その予言通りビデオで映画が観られるのが当り前の時代になりましたねえ。

それどころか最近では、ビデオの大型スクリーンを自分の部屋の中につくつて、ミニシアターにして映画を観る。
^{多別林}

わたしの知り合いの青年は自分の家に仲間を集めて、名画大会やチャップリン大会をやっているんですね。こんなことは昔を思うと考えられなかったことです。

というわけで、時代はどんどん変つていますが、こんなおもしろい世の中はありません